

指定食肉（豚肉及び牛肉）の安定価格
肉用子牛の保証基準価格等
算定概要

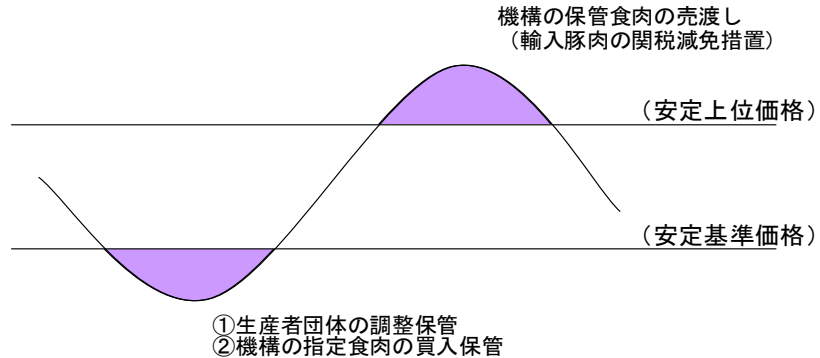
生産局

平成27年1月

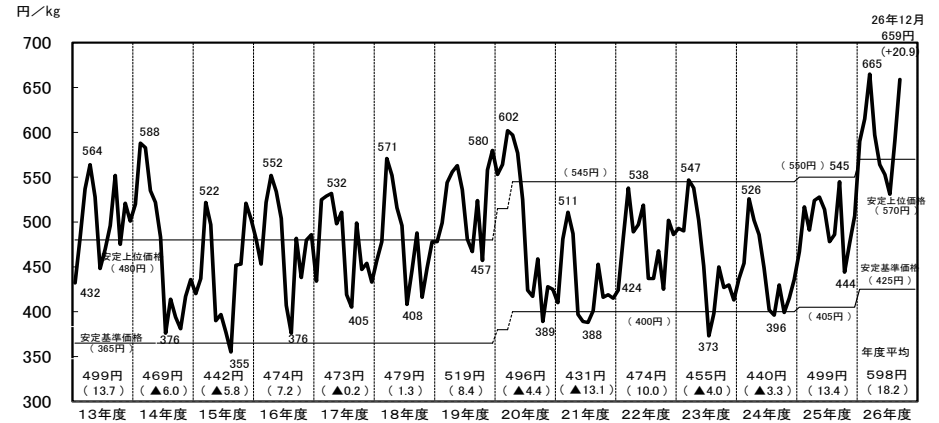
指定食肉(豚肉・牛肉)の価格安定制度の概要

○ 食肉の価格安定制度は、(独)農畜産業振興機構の需給操作等を通じて安定価格帯の幅の中に卸売価格を安定させることにより、価格の乱高下を防ぎ、消費者への食肉の安定供給を図るとともに、生産者の経営安定に資する。

◎ 価格安定制度の仕組み

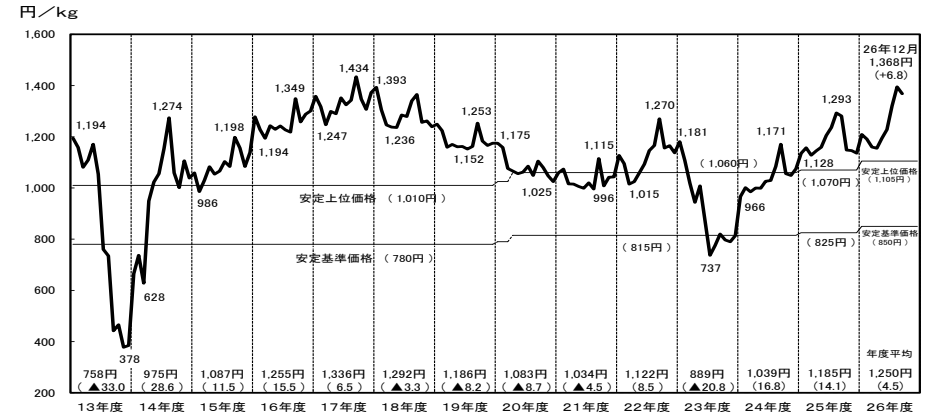


◎ 豚枝肉卸売価格の推移(東京・大阪市場)



資料:農林水産省「畜産物流通統計」
注1:価格は東京及び大阪の中央卸売市場における「極上・上」規格の加重平均値(省令価格)
注2:()内は対前年度騰落率
注3:26年12月分は速報値

◎ 牛枝肉卸売価格の推移(東京・大阪市場)



資料:農林水産省「畜産物流通統計」
注1:価格は東京及び大阪の中央卸売市場における去勢牛・乳用肥育去勢牛などの「B2・B3」規格の加重平均値(省令価格)
注2:()内は対前年度騰落率
注3:26年12月分は速報値

◎ 指定食肉の安定価格(26年度)

(単位:円/kg)

| | 豚肉 | 牛肉 |
|--------|----------|------------|
| 安定上位価格 | 570(+20) | 1,105(+35) |
| 安定基準価格 | 425(+20) | 850(+25) |

指定食肉(豚肉及び牛肉)の安定価格について

○ 指定食肉(豚肉及び牛肉)の安定価格

基本的な考え方：

豚や牛の卸売価格は一定期間でその水準が一巡する特徴があるが、この一定期間の過去の販売価格で生産者の生産コストがまかなわれていることに注目して、季節変動を加味して一年を通じて生産コストがまかなわれる豚肉・牛肉の卸売価格の範囲を算出する。

農家販売価格とは
生体1kgあたり単価のこと。

豚肉

$$\frac{27\text{年度の推定生産費}}{21\sim 25\text{年度生産費の平均}}$$

牛肉

$$\frac{27\text{年度の推定生産費}}{19\sim 25\text{年度生産費の平均}}$$

● 豚は直近5年(H21.12~H26.11)、
牛は直近7年(H19.12~H26.11)の
農家販売価格と枝肉卸売価格との
回帰関係から算出。

季節による生産量の増減
や出荷動向により生じる
価格変動の幅。

[基本算式]

安定価格
(枝肉1kg当たり)



生産者が生体
販売した価格

基準期間(豚5年間、牛
7年間)の平均農家販
売価格



生産コストの
変化率

基準期間の生産コストに
対する算定年度に見込ま
れる物価動向等を反映



枝肉換算
係数

生体から枝肉へ
の換算係数



変動係数

通常の価格
変動の幅
(豚 ±15%
牛 ±13%)

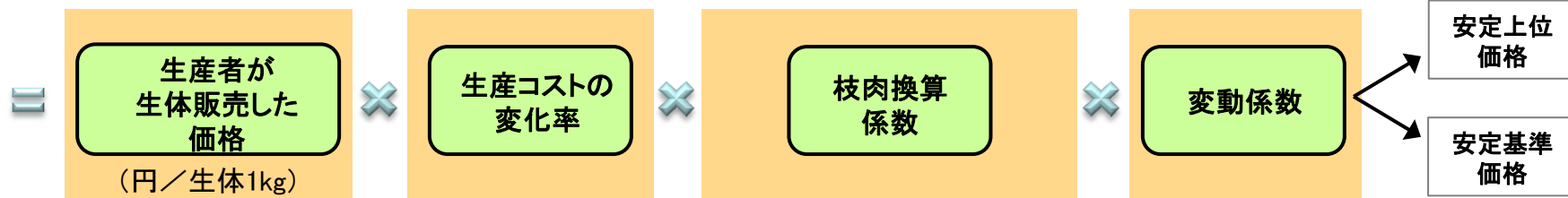
安定上位
価格

安定基準
価格

指定食肉(豚肉及び牛肉)の安定価格について

[算 式]

安定価格
(円/枝肉1kg)



[試 算]

豚肉

$$\begin{aligned}
 &= \{ (318 \text{ 円} \times 1.086) \times 1.495 - 1.48 \} \times (1 \pm 0.15) \\
 &\quad \underbrace{\hspace{10em}}_{345 \text{ 円}} \\
 &= \left[\begin{array}{l} 592 \text{ 円/kg} \\ 438 \text{ 円/kg} \end{array} \right] \Rightarrow \begin{array}{l} 590 \text{ 円/kg (+20)} \\ 440 \text{ 円/kg (+15)} \end{array}
 \end{aligned}$$

牛肉

$$\begin{aligned}
 &= \underbrace{\left[\left((1,143 \text{ 円} \times 0.955) \times 0.138 \right) \right]}_{1,092 \text{ 円}} + \underbrace{\left[\left((403 \text{ 円} \times 1.019) \times 1.742 \right) + 129.39 \right]}_{411 \text{ 円}} \times (1 \pm 0.13) \\
 &= \left[\begin{array}{l} 1,125 \text{ 円/kg} \\ 866 \text{ 円/kg} \end{array} \right] \Rightarrow \begin{array}{l} 1,125 \text{ 円/kg (+20)} \\ 865 \text{ 円/kg (+15)} \end{array}
 \end{aligned}$$

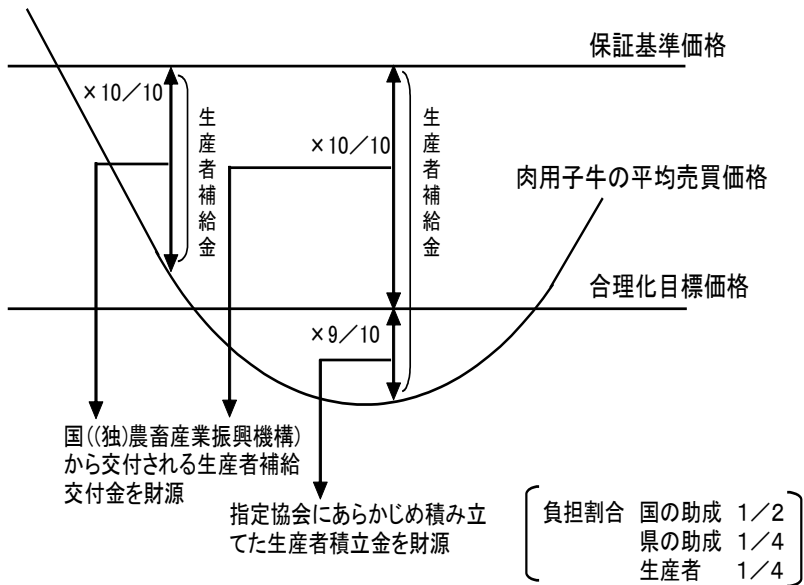
(去勢肥育和牛)

(乳用おす肥育牛)

肉用子牛生産者補給金制度の概要

- 牛肉自由化に伴い、導入された制度(平成2年4月より)。
- 肉用子牛の価格が低落し、保証基準価格を下回った場合に生産者補給金を交付することにより、肉用子牛生産の安定を図る。
- 乳用種については平成19年度第2四半期から平成25年度第1四半期まで保証基準価格を下回り、生産者補給金を交付。

仕組み

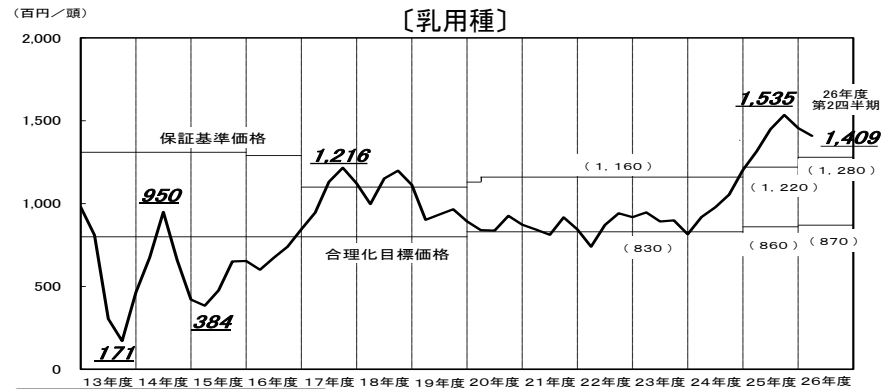
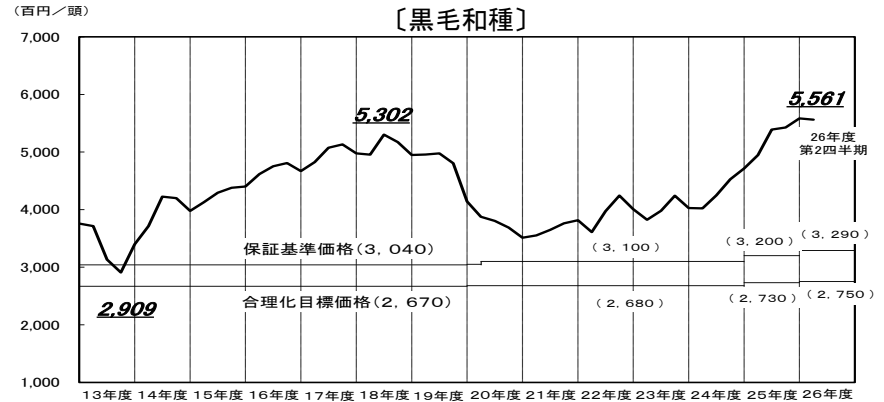


保証基準価格及び合理化目標価格(平成26年度)

(単位:千円/頭)

| | 黒毛和種 | 褐毛和種 | その他の肉専用種 | 乳用種 | 交雑種 |
|---------|------|------|----------|-----|-----|
| 保証基準価格 | 329 | 300 | 215 | 128 | 195 |
| 合理化目標価格 | 275 | 253 | 145 | 87 | 143 |

平均売買価格の推移



補給金交付実績

(億円)

| 年度(平成) | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
|--------|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----|
| 交付額 | 325 | 187 | 244 | 175 | 26 | 7 | 29 | 110 | 72 | 79 | 58 | 51 | 0.9 |

肉用子牛の保証基準価格について

1. 肉用子牛の保証基準価格

基本的な考え方：

平成3年の牛肉の輸入自由化の影響を緩和するため、輸入自由化前の農家販売価格の水準を維持し、子牛の再生産を保証する市場取引価格を、輸入自由化前の農家販売価格を基にその後の経済情勢の変化を加味して品種毎に算出する。

● 牛肉輸入自由化前7年間 (S58.2~H2.1)の子牛1頭あたりの農家販売価格。

27年度の推定生産費

輸入自由化前(7年間)の子牛生産費

● 直近7年(H19.12~H26.11)の農家販売価格と市場取引価格の回帰関係から算出。

[基本算式]

保証基準
価格
(子牛1頭当たり)

=

牛肉の輸入自由化
前の農家販売価格

×

生産コストの
変化率

×

市場取引価格
換算係数

×

品種格差
係数

黒毛和種
褐毛和種
その他肉専用種

乳用種
交雑種

再生産が確保できていた
基準期間の農家販売価格
の平均

基準期間に対する算定
年度に見込まれる物価
動向等を反映

農家販売価格
から市場取引
価格に変換

品種間の市場取引
価格の格差から、
それぞれの品種の
価格を算出

肉用子牛の保証基準価格について

[算 式]

保証基準
価格

(子牛1頭当たり)



牛肉の輸入自由化
前の農家販売価格



生産コストの
変化率



市場取引価
格換算係数



品種格差
係数

[試 算]

和 子 牛



{ (302, 660 円



① 1.033)
② 1.011)
③ 0.960)



1.050+3,131 }



① 1.003
② 0.933
③ 0.704

- ① 黒毛和種
- ② 褐毛和種
- ③ その他肉専用種

= ① 332,405 円 ⇨ 332,000 円/頭 (+3,000) (黒毛和種)

= ② 302,683 円 ⇨ 303,000 円/頭 (+3,000) (褐毛和種)

= ③ 216,982 円 ⇨ 217,000 円/頭 (+2,000) (その他肉専用種)

乳 子 牛



{ (167,246 円



④ 0.755)
⑤ 0.978)



1.053-3,207 }



④ 1.000
⑤ 1.177

- ④ 乳用種
- ⑤ 交雑種

= ④ 129,756 円 ⇨ 130,000 円/頭 (+2,000) (乳用種)

= ⑤ 198,947 円 ⇨ 199,000 円/頭 (+4,000) (交雑種)

肉用子牛の合理化目標価格について

2. 肉用子牛の合理化目標価格

基本的な考え方：

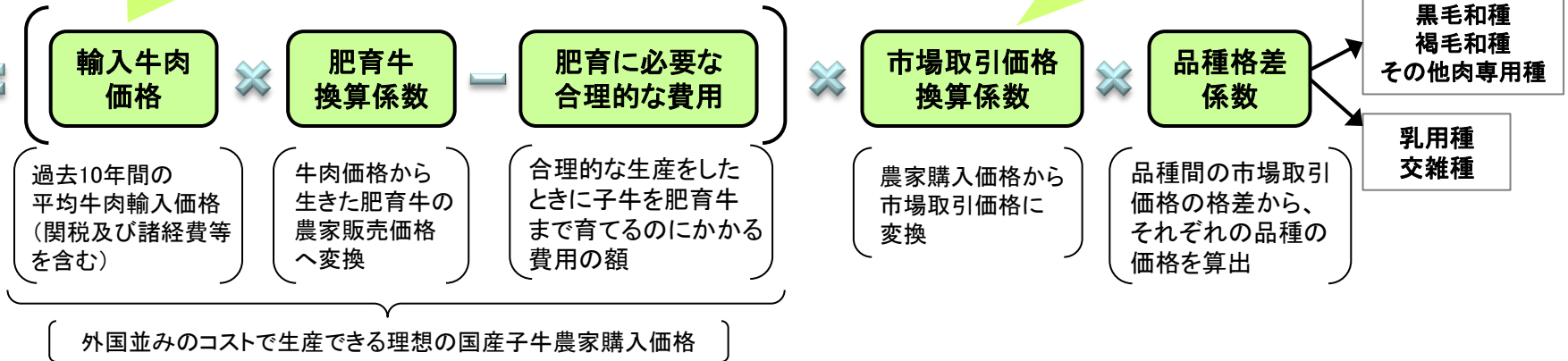
外国産牛肉に対して競争力のある国産牛肉を実現するために、子牛から成牛までの肥育に必要な合理的な費用を勘案して、目指すべき子牛の市場取引価格を品種毎に算出する。

●輸入牛肉に対抗できる国産牛肉として、国産牛肉との品質格差分を上乗せ。

●直近7年(H19.12~H26.11)の農家購入価格と市場取引価格の回帰関係から算出。

[基本算式]

合理化
目標価格
(子牛1頭当たり)



肉用子牛の合理化目標価格について

[算 式]

合理化
目標価格
(円/子牛1頭)

$$\begin{aligned}
 & \left[\begin{array}{c} \text{輸入牛肉} \\ \text{価格} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{肥育牛} \\ \text{換算係数} \\ (\times \text{出荷体重}) \end{array} - \begin{array}{c} \text{肥育に必要な} \\ \text{合理的な費用} \end{array} \right] \times \begin{array}{c} \text{市場取引価格} \\ \text{換算係数} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{品種格差} \\ \text{係数} \end{array} \\
 & \text{(円/部分肉1kg)} \qquad \qquad \qquad \text{(円/頭)}
 \end{aligned}$$

[試 算]

肉専用種

$$\left[\left\{ \left(1,865 \text{ 円} \times 0.310 + 349 \right) \times 758 - 425,856 \right\} \times \left(0.944 + 3,667 \right) \right] \times \begin{array}{l} \textcircled{1} 1.046 \\ \textcircled{2} 0.962 \\ \textcircled{3} 0.554 \end{array}$$

928円

- ①黒毛和種
- ②褐毛和種
- ③その他肉専用種

$$\begin{aligned}
 & = \textcircled{1} 277,248 \Rightarrow 277,000 \text{ 円/頭 (+2,000) (黒毛和種)} \\
 & = \textcircled{2} 254,983 \Rightarrow 255,000 \text{ 円/頭 (+2,000) (褐毛和種)} \\
 & = \textcircled{3} 146,840 \Rightarrow 147,000 \text{ 円/頭 (+2,000) (その他肉専用種)}
 \end{aligned}$$

乳用種

$$\left[\left\{ \left(967 \text{ 円} \times 0.007 + 456 \right) \times 768 - 282,479 \right\} \times \left(0.678 + 38,202 \right) \right] \times \begin{array}{l} \textcircled{4} 1.000 \\ \textcircled{5} 1.650 \end{array}$$

463円

- ④乳用種
- ⑤交雑種

$$\begin{aligned}
 & = \textcircled{4} 87,512 \Rightarrow 88,000 \text{ 円/頭 (+1,000) (乳用種)} \\
 & = \textcircled{5} 144,395 \Rightarrow 144,000 \text{ 円/頭 (+1,000) (交雑種)}
 \end{aligned}$$